

▶ 第8章

経済安保の観点から見た北朝鮮経済 ——供給網の新旧比較と今後の課題

日本経済研究センター特任研究員 帝京大学准教授

李 燦雨

【ポイント】

- ▶ 北朝鮮は建国の前後から経済安保を強く意識した経済建設を進めてきた。植民地時代の円ブロック解体によるサプライチェーン（供給網）寸断リスクに対応しながら 1950 年代末に社会主義工業国の基礎を作り、60 年代以降は自力更生政策で東側の国際サプライチェーンが寸断しても国内生産で代替できる体系づくりを目指した。
- ▶ 金正恩政権は 10 年間の試行錯誤を経て自力更生政策に戻る選択をした。内向きの経済政策は輸出工業を育てられず、先進技術を取り入れた産業構造の改善も鈍くなる可能性が高い。投資の不足は生産を低下させ、経済の全般の沈下を余儀なくされよう。
- ▶ 北朝鮮が自国経済を本格的に浮揚させるには国際サプライチェーンに復帰することが不可欠だ。そのためには経済制裁の緩和に向け、核・ミサイル問題をめぐる国際社会との対話に真摯に対応する必要がある。



注目データ

北朝鮮建国の経済形成期と現在の経済安全保障政策比較

区分	国家経済形成期	現在
サプライチェーン寸断のリスク対応	円ブロック解体の対応 ①国内原料に依拠 ②社会主義ブロックのサプライチェーンに依存	国際経済制裁への対応 ①自力更生、自給自足 ②中国・ロシアと貿易（密貿易を含む）
サプライチェーン依存のリスク対応	自主的経済の強化	自力更生、自給自足
経済建設の政策	重工業優先発展と軽工業・農業の同時発展	核・国防工業の優先 金属・化学工業優先発展と軽工業・農業の同時発展
国際サプライチェーンに関する政策	有無相通の貿易	①有無相通の貿易 ②経済特区・開発区政策（国際経済制裁下で寸断）
結果	自力更生と自立的民族経済 社会主義計画経済の追求	自力更生と自立的民族経済 社会主義計画経済の改善

資料：筆者作成による。